

東洋拓殖會社

十二年十一月

秘

東洋拓殖會社ノ欠陥

- 一 幹部其ノ當ヲ得サルコト
- 二 事業ト銀行業ヲ兼營セル事
- 三 資産中ニ多額ノ欠損ヲ抱擁セル事
- 四 資金調達困難ナル事
資金調達難ヲ法律上ノ機能ニ歸スルハ當ラス
- 五 配當率ハ高キニ過タル事

東洋拓殖會社ノ強味

- 一 所有土地ノ評價低キ事
- 二 外債償還益大ナル事

會社ヨリ徴スヘキ書類

會社財産ノ内容及決算状況ハ既往提出考
ノキニテハ明瞭ナラス依テ左記書類ノ提出
命スヘシ

- 一 諸貸出金調 (一口毎ニ詳細、特ニ担保ノ詳記ヲ要ス)
- 二 滞貸明細書 (欠損ト認ムヘキモノハ明記ノコト)
- 三 利息滞債権調 (滞利中ニ貸増ニ属スル分ヲモ含ム)
- 四 三十万円以上大口債権詳述書 (一口毎ニ別冊トス)
- 五 基本収益調 (十一年度末ノ残高ヲ基礎トシ算
出スルコト)
- 六 九、十、十一年度決算内容詳述書
- 七 社内留保金調
- 八 経費節減實行及見込額調

一 十一年度及十一年度ノ決算ヲ觀ルニ

イ 貸付金ノ欠損ヲ殆ト消却シ居ラス

ロ 所有有價証券中ニハ無價値同様

モ、少カラサレ一割ヲス之ヲ押込金

ニ 評價シ而モ尚十一年度ニ於テ

債ニ比シ約三百二十四万円、過大評

債ヲ与シ居レンモナリ

ハ 外債臨時償還益十一年度一七九九五七二

四、十一年度一七一九九二〇四ヲ繰入レ辛ウ

シテ決算ヲ為シ居リリ換言スレハ臨時

収入ヲ以テ經常支出ヲ補填スルノ状

ナリ

ニ 左ノ諸項ハ研究ヲ要スヘキ疑問ナリ

貸付残高 一六、四、五、二、五、七、四、四、中

回収不能見込高 四、二、四、三、一、四、四

回収困難見込高 八、六、七、八、八、七、四

計 一、二、九、二、一、九、一、四

ハ甚ク少キニ夫スト認メラル

貸付金ハ大体担保ヲ有スト雖不動産ハ別

トスルモ

有價証券

種利

礦業権

工場財團

等ノ担保ハ精査ノ要アリヘシ

不動産担保ノ貸出ハ鑑定價格ノ三分

ニ以内クルコトヲ要スルニ尙ラス然ラサル

モノアリ、有價証券ニ對シテハ此ノ如キ制

限ナシト雖中ニハ鑑定價格ヲスラ超過

シタル貸出アリ

ニ貸付金 一、二、六、四、五、五、七、四、四ニ對シ

十一年度利息収入高 一、八、二、七、八、九、五、七、四、九(前年度約分)

十一年度不現在簿利息高 二、九、一、三、四、三、一、四

ハ成績良好ニ過クル觀アリ、殊ニ之等利

息ノ多クカ三月末ニ於テ收入ニ居レル矣

調査ノ要アリ

又利息總額ニ對スル實收額ノ割合

カ比較的良好ナルノ、十ニム九年度以

降ニ於テ却テ増加セシハ如何

年度	利息總額	利息収入額	総額
大	八四三 <small>十</small>	六七五 <small>十</small>	一五〇八 <small>十</small>
七	二〇〇〇	一四一〇	三四一〇
八	四四四四	三四四四	七八八八
九	七、六五二	六七八七	一四、三四九
十	一、六〇五	九、一一九	一〇、七二四
十一	一三、〇〇八	一〇、二七八	二三、二八六

ホ、起業資金ヲ援助シタル會社銀行中現
在無配當ノモノニ對スル

株式会社
株式會社
計
一九、五七七、三一四

計
二、三七八、八三三

ノ資産、差當リ大ナル評價損ヲ出スノ

要アリ

へ、現ニ配當ヲ為セル會社若ハ銀行ノ株券
ト証券取引所ノ價格急激引下リタル要アリ

一、貸付金

總額 一四六、六、〇八九〇円

(十三年九月末現在)

内

担保

一、四九八、一八四四

有價証券

一、三七八、一五七

財團其他物件

一、七〇三、八三三

債權其他權利

計 三六、五八〇、一七四

貸付金、大部分ヲ占ムル不動産担保貸及
公共團體産業組合貸付ハ活ケルモノト觀テ
前記貸付ノ四割ヲ回收不能ト推定スレハ

回收不能額

一四、六三二、〇六八円

二、子會社關係

株式ヲ引受ケタル會社關係額通高左ノ如シ

株式金額

一、八五〇、一八五〇

社債

一、一三、五〇〇元

貸付金

一、一八七、〇〇〇

計

四、一九八、九六一七四
一、一三、五〇〇元

イ、所有株券

右ノ内所有株券、過大評價額ハ十一年

度末ニ於テ市價トキモノラ額面(押込)

ニテ計上スルモ尚且三、二四七、〇〇〇圓ニ達シ

タル筈ナルモ書類焼失、為内容明カラ

ス依テ總テ押込金額ヲ以テ計上セルモノ

トシテ

無配當會社株式

六、二〇九、五一二圓、八割

配當會社株式

六、六四四、六七三圓、四割

ヲ換矢ト認シハ

無配當會社株式 四、九六七、六〇九圓

配當會社株式 二、六五七、八六九圓

計欠換

七、六二五、四七八圓

ロ、社債及貸付金

無配當會社、社債及貸付金一九、五七七、

三一、一〇、〇〇〇圓、換入ノト推定ス

欠換

九、七八八、六五五圓

欠換合計

三二、〇四六、二〇一圓

三、決算

イ、決算中臨時社債償還益

十年度

一、一九九、五七二圓

十一年度

一七一九、九二〇四

ヲ計上レ居レルカ十年度ハ之カ為債券發
行費等ヲ消却シタルカ如キモ十一年度ハ殆ト
全部配當計算ニ入レタルカ如シ故ニ十年
度利益金四四一三、〇〇〇田中ヨリ之ヲ控除スル
トキハ

純益金 二六九三、〇八〇

トナリ經常收入ヲ以テシテハ配當金三五〇、
〇〇〇ニ不足スルコト約八十万円ニ達シ六分ノ
配當ヲ為シ得ルノミ

只況ンヤ右利益中ニハ利息ノ債増ニ屬スル
モノ少カラサルヘク又不良債権ノ消却ヲ開
却セルモノ多額ナルヘキヲ以テ之等ヲ相當

ニ考慮シテ決算スルトキ配當ヲ為スコト
ハ困難ナルヘシ現ニ表面ニ現ハレタル有價
證券ノ評價損犬ニテモ之ヲ計上スルトキ
ハ殆ト右純益金ヲ費消スヘキ狀況ナリ

ハ事業ノ成績ハ現状維持ト見ルヲ當然トス
ヘク而シテ金融部ノ收入ハ右ノ如ク不良
ニシテ負債ハ益高利トナル為支出ハ一層
増加スルコト疑ナキ今日ニ於テハ須ラク

甲 配當率ヲ減少シテ不自然ナル社債
ノ増加ヲ防止スルト共ニ

乙 經費ヲ極力削減シ

丙 不良債権ハ鋭意整理スルコト
焦眉ノ急務ナリ之ト同時ニ

丁 外債償還益七、五〇〇、〇〇〇円ハ欠損ノ消却ニ充當シ

戊 所有土地ハ速ニ処分スルコトヲ肝要ナリトス内部整理ヲ行ハスシテ外観ヲ粉飾シツ、政府ノ援助ヲ切望スルカ如キハ本末顛倒ノ甚シキモノナリ

五分配當

仮定

十一年度

1. 積立(一割)	二二〇,〇〇〇	四四三,〇〇〇
2. 賞與金	八〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇
3. 配當金	一七五,〇〇〇	三五〇,〇〇〇
4. 繰越金	三四四,二八五	三四四,二八五
計	二,三九四,二八五	四,七五七,二八五

十一年度

利益金	四,七五七,二八五	(外繰越金三四四,二八五)
差引減	二,三六七,〇〇〇	含ム